

老人クラブ会員の方へ

平成25年10月

発行 広島県警察本部
交通部交通企画課

～尊い命を失わないために～

全国では、毎日のように交通事故によって多数の尊い命が失われています。
広島県でも、

9月29日現在、75人(うち高齢者42人)

の方が交通事故で亡くなられ、**加害者として一生悔やんで生きていく人、突然大切な家族や知人を失い、悲しみの中生きていかなければならない遺族の方々**は後を絶ちません。

被害者遺族の「声」を心に留め、互いに声を掛け合って、交通事故を起こさないよう、また、あわないようにしましょう。

被害者遺族の手記

「交通事故の加害者・被害者遺族手記集」の『交通事故で妻を失って』

勤めに行っているはずの長男が不意に帰ってきて、

「おばあちゃんが交通事故だ。」

と大声で叫んだので、一瞬目の前が真っ暗になってしまいました。

午前10時頃、

「一寸、お使いに行つて来ますよ。」

と言って出て行ったばかりなのに、...

(中略)

妻は81歳とはいえ、心身ともにしっかりしており、この日も徒歩で自宅から銀行により、郵便局で口座を作り、そして、デパートで買い物などをして青信号で横断歩道を歩行中に、右折してきたトラックにはねられました。

私にすれば、50数年苦しみや喜びをともにしてきた糟糠^{そうこう}の妻(貧しいときから苦勞をともにしてきた妻)。

子どもや孫たちにすれば、やさしく色々お世話になったおばあちゃんの突然の死に、その悲しみは言葉に尽くすことはできません。

81歳といえ、あと何年生きられるか、短い年月しか残っていないかもしれませんが、それだからこそ貴重な年月です。

車社会ですが、私はとうとう車を覚えずじまいでしたが、子、孫の代ではほとんどが車を運転し、また、将来運転するようになりますが、走る車は誠に便利なものです。

しかし、一度誤れば大きな凶器になり、人を傷つけ、また、殺めることになります。絶対に事故を起こしてはなりません。

交通事故を他人事のように思っていました、事故の悲しさ恐ろしさを思い知りました。

